

4年生の地図指導は 水・ごみ学習＋県学習でダブル活用を

玉川大学教育学部(前・愛知教育大学)教授 寺本 潔

① 水・ごみ学習でも地図帳を使う

1学期中に多くの4年学級では、飲料水やごみ処理、消防署もしくは警察の働きなど、公共の仕事の意味を教科書や副読本で指導されたことだろう。その際、何回くらい地図帳を活用されただろうか。「公共の仕事の単元は自治体にかかわる内容だから教育委員会発行の社会科副読本で済ませ、『地図帳』はほとんど使っていません。」という返事が返ってきたら、実にもったいない。

その理由について神奈川県を事例に解説しよう。『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.37には「①東京都とそのまわりのくわしい地図―大都市のくらし―」という50万分の1縮尺の地図が掲載されている。この地図には凡例を見ると「▲おもなごみ処理場」と「🚰おもな水道水取水場」の絵記号が載っている。そこでそれらの絵記号の分布と数を調べてみると「ごみ処理場」（1日250tの処理能力を持つ焼却場を記号化）が横浜市や川崎市、藤沢市などに合計19、「取水場」が多摩川・相模川・酒匂川の付近に7箇所も見つけることができた。これらの県内での位置は人口規模を示す「□や◎」などの都市記号の配置と関係していて「人がたくさん住んでいるところにはごみ処理場と取水場が多い」と関連づける

ことができる。また、東京湾を見ると薄桃色で塗られた埋立地がたくさん描かれているため、ごみの埋め立てによる造成地である点も押さえることができる。巨大都市東京も近いため、ごみ処理や水道水の確保で自治体ごとの工夫や協力があるに違いない。つまり、飲料水やごみ処理といった公共の仕事が地図帳でも発見できるのである。

大都市に近い山地を抱える自治体では産業廃棄物の最終処分場で土地提供の協定を結んでいたり、水道水の確保では水源涵養林の貢献も大きかったりする。これらの複合した内容は副読本に掲載されている狭い範囲の簡易な地図や模式図だけでは十分説明できない場合が多い。とりわけ、環境問題の視点も加味すれば、水とごみの単元学習でも地図帳をじっくり読ませ広い視野で公共の仕事の意味を捉えさせた方が問題解決力を伸ばせる。

残念ではあるが、身近な消防署や警察署は『地図帳』には載っていない。しかし、県内の消防署や警察署の分布図が手に入れば、人口が集まっている地域に消防署や警察署が多く配置され、少ない地域には分署や出張所が配置されている事実がつかめるだろう。さらに、単元「昔のくらしとまちづくり」では、用水路の開削や農地の開拓など歴史的に有名な事例（安積疎水や有明海の干拓など）なら

十分に地図帳でも発見できる。

② 県の形を回転させない

水やごみの学習でも地図帳を使うことをお勧めしたが、4年の地図学習で一番、地図帳を活用する単元は「わたしたちの〇〇県（都道府）」である。この単元で、県の形を厚紙に写し取り、それを黒板に貼りつけて、県の特色に気づかせる指導は良い指導である。しかし、お奨めできない指導法がある。それは県の形の厚紙を、北を上にして眺めさせるだけでなく、いろんな角度から眺めさせ「何の形に見えますか？」と発問する指導である。児童は動物や物・人の形をイメージして活発に発言するのだが、この指導法には先が見えない。先とは社会科としての学力である。県



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.37~38



の形をいろんな角度から眺めさせて形を問う指導は、単に形の面白さをイメージさせる図工科ならばわかるが、県の正しい形を学ばせたい社会科にとっては上を北にした形でイメージさせるべきである。北を上にした形で捉えないと3年で学んだ市の形、さらに県内での市の位置に関する既習知識との整合ができないばかりか、隣接県との位置関係認識にも不都合をもたらす。

『小学校学習指導要領解説 社会編』p.43にも記述されているが、「県の特色を考える手掛かりとして、県内における自分たちの市及び我が国における自分たちの県の地理的位置、47都道府県の名称と位置を調べる対象として挙げている。」の一文にも影響を与えるから深刻である。市→県→我が国の形という

具合に、いわば空間的な包含関係になっている点を理解させるためにも北を上にした県の形で扱った方が理解しやすい。

あらためて述べると、47都道府県の中からパズルのように都道府県の形だけを抜き出して「あっ！北海道は逆さにすると〇〇のように見える！」などと喜ば

せても都道府県学習には意味がない。47もの都道府県で成り立つ我が国の姿は、北を上にした状態で捉えつつ、自県が県の仲間である都道府県の広がりの中でどう位置づいているかを考えさせることで県の特色（日本の中で北のほうにあるか、太平洋側に面しているかなど）を考える手掛かりにしたい。

もちろん、確かな国土イメージが習得できた後でなら、日本海側を下にして逆さに日本を眺めて見るなどの視点も試みてよい。中学校社会科歴史的分野の学習でしばしば見かけ

るが、大陸から見たアングルで日本列島を扱ったりすると列島が中国大陸の上に連なって見え、一層、大陸との歴史的な交流が深いことが感じられてくるから面白い。しかし、まだ自県の形や位置も曖昧な4年生の段階で県の形を切り抜いて半島や湾のユニークな形からそれが何に見えるかだけを考えさせてもあまり意味がないのである。

むしろ県の形を切り抜くなら、臨海県の場合は海岸線と隣接県との県境の区別をしながら切り抜く丁寧さがほしい。そうすれば、おのずと県の地形学習に移行できるからである。「私たちの県の形はこれです。水色の線は海岸線です。赤色のアミがかかった点線は山や平野で隣の県と接している県境です。」と解説するだけで、大まかに平野(黄緑色系)と山地(茶色系)の広がりが見えてくる。その後で「この厚紙に県を横切る鉄道と高速道路、幹線国道のラインを写したトレーシングペーパーを重ねてみましょう。どういったことがわかりますか?」「次に、県内にあるすべての市町村も重ねてみました。どうですか?」などと指導の流れを工夫すれば、「海岸に近い場所に大きな市があります。大きな市を結んで鉄道や高速道路が走っています。」「人口の少ない町や村はそういった場所とは違ったところに散らばっています。」などが見えてくる。その後で、県全体のおもな山地や平野、半島、川、湖、海などの地名記入や等高段彩の着色作業をさせていくと確実に県の特徴が見えてくる。

③ 単元学習と県学習のリンクを張る

地図帳をしばしば開かせている学級では、1学期の公共の仕事の単元で、自治体の果たす役割が地図の上でも見えてきているはずである。もし、この点の指導を怠ってきた場合には、県学習の際に振り返ってほしい。地図

帳で県の拡大図が載っているページを開いて地形や交通、土地利用などを扱う場面で「水の学習で市の水道水は〇〇川の水を使っていることを1学期に学びましたね。〇〇川の水を飲んでいる市や町(村)はほかにどのあたりにありますか?」「市のごみ処理でクリーンセンターを見学しましたね。地図帳でそのクリーンセンターの場所を確かめましょう。県内には大きな規模のクリーンセンターがあると5つありますよ。それはどのあたりにあると思いますか?」などと発問するのである。そうすれば県内の人口規模が大きい市の位置が単元学習の振りかえりでも判明する。

用水の開削や農地の開拓を扱う単元学習でも地図帳でリンクさせ「もし、この用水や農地が造られなかったら〇〇市(町・村)は今の人口に達していたでしょうか?」と開発のおかげで土地が耕されて人口が増え、交通も発達したことにふれるとよい。このように県学習を行う場面で折にふれて既習の水やごみ、昔の開発などを扱う単元学習の事項を地図上で確かめさせる発問や指示を繰り返すのである。

④ 47都道府県の学習は暗記ゲームでない

今回、学習指導要領で強調された47都道府県の名称と位置の確実な習得は、単なる暗記ゲームの推奨ではない。先に述べたような47のピースに切り抜かれた厚紙をバラバラにして「これは何県でしょうか?」とあたかもカルタ遊びを楽しむようなことは時間をかける割にはあまり意味がない。それよりも北を上にして県の形に似ている動物や物の形を言い当てたり、その県のシンボル(例:青森県はりんごで有名)とのセットで記憶させ、日本全図の中での位置を丁寧に確認させることの方が大事である。

47都道府県の名称と位置の学習は、あくまで県の学習の延長にあり、我が国の中での

自県の位置を確認し、同じ県の仲間や県とは異なった都道府といった呼び名の存在に気づかせることがねらいなのである。もちろん、5年生の国土学習や産業学習の基礎的知識を育むうえでもこの知識が役立つのはいうまでもない。しかし、47都道府県の県別地理を扱うわけではない。自県のおもな山地や平野の名前、都市名、交通の様子、隣接する県名などは扱うが自県以外の地理的な特色を自県のように扱わなくてよいのである。

もし、自県以外の46都道府県の地理的特色をカルタ遊びを通して扱いたければ総合的学習の時間を使って展開するとか、カルタに盛り込むイラスト描きを図工と絡めて実施するなどの工夫が必要となるだろう。

⑤ 47都道府県の効果的記憶術

帝国書院から本誌4月号の別冊付録として配布されている『ワークシート～地図の世界をもっと広げよう！～』の中にある「ワークシート2ゲームを通して覚えよう—47都道府県—」はとても面白い。やり方は次の通りである。

2人1組になり、それぞれ自分の色を1つ決める→北海道と沖縄県のどちらかを選び、道・県の名前を書き、自分の色をぬる→じゃんけんをし、勝った人は、自分の色のとなりになり、海に面している都府県を選び、その名前を書き、自分の色をぬっていく→より多くの都道府県を書き、自分の色をぬった人が勝ち。

玉川大学の学生にもやってもらったが、じゃんけんを楽しみながら彼らは飽きずに47都道府県名を白地図に記入していった。

⑥ 県内1泊2日の社会科の旅

自県が掲載されている拡大図を用いて、児童のグループに旅プランを考えさせる指導法は、児童が地図を詳しく読もうとするので有効である。その際、児童のひとさし指を使ってルートを読み取る指旅行と指先に五感で読み取れる感覚読みを併用するとさらにうまくいく。指旅行とは指を自分の分身と位置づけてまるで指先に自分の目玉がついているような感覚で図上旅行させる筆者が20年以上前に考案した指導法である。爪に児童の目や鼻・耳・口などを細いマジックで描かせると指が小人になった自分のような気がするため楽しさが増す。あたかも目や耳、鼻などの感覚器官で感じるかのように指先で読み取れる地図の絵記号や地名、交通、土地利用などを読み取るのである。たとえば、「横浜を出発して箱根町で1泊。芦ノ湖が見えるよ（目）。宿では温泉につかってゆっくります（体全体）。ここは国立公園になっています。副読本に伝統工芸で寄木細工があると書いてあったからお土産に買いました。翌日は小田急線で本厚木の親戚の家に立ち寄って帰りました。途中で〇〇工場が見えました。」などと県内社会科紀行を楽しむのである。

指導の要点として、県内の3箇所以上6箇所以下の市町村に立ち寄ること。時間的に無理のないルートを選定すること。必ず、社会科の学習に関係する見学箇所を書き込むこと。お土産を一つ買うこと。以上を条件に白地図に旅ルートを書き込ませるとよい。

🏠 寺本先生のひとくちアドバイス

- 地図帳は4年の水・ごみの学習でも活用しよう。
- 市・県・都道府県（日本）の空間的な包含関係を丁寧に扱おう。
- 県の学習は旅行の楽しさで読み取る「県めぐり、社会科の旅」にしたい。